

きび湯



2025

No. 62 岡山県小学校長会

表紙写真 「大原美術館」

昭和5年、倉敷の実業家大原孫三郎が設立したもので、西洋美術、近代美術を展示する私立美術館としては日本最初のもので、蔦に覆われた石垣の門を入るとロダンの彫刻「洗礼者ヨハネ」「カレーの市民」の像が迎えてくれます。ギリシャ神殿風の本館の中にはモネやエル・グレコなど有名な西洋名画が多数展示されています。

写真提供 倉敷市観光情報発信協議会

目 次

はじめに	岡山県小学校長会 会長 小山 典子	2
ご挨拶	岡山県教育委員会 教育長 中村 正芳	3
第1章 令和7年度 岡山県小学校長会総会・研修会の概要		
令和7年度 岡山県小学校長会総会・研修会の概要		7
令和7年度 岡山県小学校長会活動方針		10
令和7年度 岡山県小学校長会役員写真		11
令和7年度 岡山県小学校長会研修会		12
講演「GIGAスクール時代の学習指導要領改訂の方向性」		
文部科学省初等中等教育局 教育課程課長		
GIGA StuDX 推進チームディレクター（副）		
武藤 久慶 氏		
第2章 第72回中国地区小学校長会教育研究大会岡山大会 概要報告		
中国大会点描		14
大会要項		15
大会概要		17
開会挨拶・祝辞		18
大会主題及び趣旨		23
記念講演「小学校と手をつなぐ～大原芸術財団の場合～」		24
公益財団法人大原芸術財団代表理事 大原 あかね 氏		
分科会関係者一覧		26
分科会記録		28
中国大会岡山大会に参加して		48
中国大会岡山大会を終えて		52
第3章 令和7年度 研究大会参加報告		
全連小福岡大会概要		57
全連小福岡大会提案発表（3分科会：評価・改善）		59
全連小福岡大会に参加して		63
指定都市小学校長研究協議会静岡大会提案発表		65
第4章 岡山県小学校長会の歩み		
(1) 令和7年度 事業報告		71
(2) 令和7年度 各委員会等の活動報告		76
(3) 会員の動静		81
(4) 支部のあゆみ		82
－資料編－		
(1) 岡山県公立小学校一覧		105
(2) 令和7年度 岡山県小学校長会役員一覧		110
(3) 岡山県小学校長会歴代会長及び副会長等一覧表		111
おわりに		112

はじめに



岡山県小学校長会 会長 小山典子

この度、令和7年度岡山県小学校長会誌「きび路」第62号が発刊されることとなりました。昭和39年の創刊以来、その年度ごとの県小学校長会の活動をはじめ、実践の成果等が綴られています。発刊に当たっては、お忙しい中、多くの方々に寄稿・編集に携わっていただき、心よりお礼申し上げます。

今年度、公立学校職員の処遇向上のため、給特法改正が可決・成立しました。また、学校と教師の業務の3分類も改訂され、教師を取り巻く労働環境整備が進められています。各学校においては教師の健康・福祉の確保に向けて、学校における業務分担の見直しや校務DX加速化など、学校における働き方改革の更なる推進による教育職員の時間外在校等時間の縮減への取組を進めていくことが求められています。これらを通して、全国的にみられる教員不足が少しずつでも改善されることを願わずにはられません。

このような中、本年度の岡山県小学校長会は「つながる」ことを大切にして、小学校・義務教育学校の校長先生方、353名で活動に取り組みました。活動の目的は大きく分けて二つあります。まず、一つめは、校長としての指導性や役割について協議し、互いに高め合うことができるようにすることです。今年度は第72回中国地区小学校長会教育研究大会岡山大会が開催されました。開催地倉敷に中国地方各地から約700名の参加をいただきました。副主題として掲げていた「夢や知を育み 持続可能な社会の創造者となる 子どもの育成に向けた学校経営の推進」のために、校長として必要な責務と指導性について学び合うことができました。実践の交流・協議を行った分科会では、参加者一人一人がつながり、熱心に協議している姿を見ることができ、充実した時間を過ごしていることが伝わってきました。また、倉敷支部の校長先生方を中心とする数年前からの大会準備や当日の運営の様子から、皆が心をつなげて取り組むチームワークのすばらしさを感じられ、お互いがつながることの大切さを改めて思うことができました。実りのある本当に良い大会となりました。

二つめは、県教育委員会や市町村教育委員会への提案活動、教育事務所等との教育懇談会、県議会文教委員会への陳情活動などです。今年度のアンケート結果や各支部でまとめたいただいた提案項目などから「教育諸条件の整備・充実」を中心としてそれぞれの場で話をさせていただきました。校長先生方お一人お一人の力の集まりが、未来の岡山の学校を創造する大きな力となりますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。

終わりになりますが、お力添えいただいている校長先生方に改めて感謝申し上げますとともに、平素から本会に温かいご指導、ご支援を賜っております岡山県教育委員会をはじめ多くの関係の皆様へ心よりお礼を申し上げ、はじめの言葉といたします。

ご 挨拶



岡山県教育委員会 教育長 中村正芳

岡山県小学校長会会誌「きび路」第62号の発刊を、心からお喜び申し上げます。

校長先生方におかれましては、学校経営の責任者として、子どもたちの学ぶ力の育成、豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立などを旨とし、本県の小学校教育の充実と発展のために、日々ご尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、現行の学習指導要領において、授業改善の中核をなす考え方が「主体的・対話的で深い学び」であります。とても大切な概念であり、現在行われている中央教育審議会の議論の中でも、次期学習指導要領において、その「実装化」が、基盤となる考え方として整理されているところでもあります。

「楽しい」とか「必要だな」と感じることで、主体性、言い換えれば「当事者意識」の高まった子どもたちが、「対話」を通じて、互いに考えを深め、気づきを得ることで、学びが深まっていく。こうした学びの形が、物事を深く理解することに繋がるということは、どの先生方も経験知として理解されていると思います。その一方で、「実装化」がまだ十分ではない学校もあるのではないのでしょうか。

この「実装化」において大切なのは、先生方が「主体的・対話的で深い学び」ができているかだと思っています。

誰一人取り残されず、心理的安全性が担保された教職員集団のもと、「なぜそれを行うのか」を全員がしっかり理解し、納得して、対話により、自分たちの最適解を求めていく。こうした「主体的・対話的で深い学び」ができる組織文化」を育てるリーダーとして、管理職の皆さんには大いに期待しています。

現在、改訂議論が進む新しい学習指導要領においては、学校裁量の幅がさらに拡大される見込みであり、働き方改革も法改正を受け、更なる取組が求められる中、子どもたちにとってどうかということを中心に据えて、今一度、すべての教育活動を見つめ直すことが求められております。また、生成AIをはじめとした教育DXの急速な進展は、学校の学びや校務の在り方などを、今後大きく変化させることでしょう。こうした、今までに経験したことのない変化や課題に、これから次々と直面していくことが想定される中で、学校や教職員が、これらを前向きに受け止めながら、「しなやか」に対応し、乗り切っていくことが求められています。

その際、大切なのが、学校と教職員が高い当事者意識をもって「主体的・対話的で深い学び」を続けられるかであり、この不断の探究の姿勢こそが、これからの教育の未来を拓く鍵であると思っています。

教育の成果は、子どもたちの成長であり、それが「できる」かどうかは、最終的には、子どもたちと日々向き合っている校長先生方や教職員、学校の取組にかかっています。

学校や教職員が「できる」ために、引き続き、校長先生方としっかり議論しながら、丁寧な目的の説明と、現場理解と伴走により、学校現場が主体性を持って前に進めるよう、小学校教育の充実を支援してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。